

アルファクラブ武蔵野(株) (さいたま市大宮区)



フレンチの一流シェフが監修する
「フレンチ BOX」を提供

大手互助会のアルファクラブ武蔵野(株)は、葬儀時に提供する料理として、世界のレストランガイドから二つ星を与えられた「HOMMAGE (オマージュ)」オーナーシェフである荒井昇氏(以下、荒井シェフ)が監修する「フレンチ BOX」の提供を開始した。

通夜や葬儀・告別式などで振る舞われる料理は、「冷めている」「美味しくない」というイメージをもつ人が多いが、フレンチ BOXは、本来の“故人様を偲ぶ”“参列者への感謝の意を表す”という想いで、荒井シェフが伝統的フレンチに工夫を加えた逸品として仕上げた。

料金は、館内飲食が1万1,000円(税込)、持ち帰りが1万0,800円(同)。

同社は、葬儀時の料理に贅沢なエッセンスを取り入れることで、よりスモールラグジュア



リーな葬儀を提供していきたいとしている。

なお、フレンチ BOXは、同社直営のさがみ典礼の会館をはじめ、アルファクラブグループのサイカンシステム(株)が運営するサイカンホールプリエ、(株)東冠が運営する東冠メモリアルの葬祭会館でも提供される。

TEL●0120-81-3310

ウィルライフ(株) (横浜市緑区)



danbaul×styleによるミニマム空間
段ボール製一畳台目茶室「紙竹庵」

生活様式の変化により、畳が敷き詰められ、正面に床の間、そして簾や障子など和の設えの茶室が消えてしまった。現在では茶室をつくる材料を集めるだけでもたいへんで、コストもかかり、さらには職人の技と豊富な知識を要することから、茶室を設けることは現実的にはむずかしくなっている。

そうしたなか、トライウォール(段ボール)の家具ブランド「danbaul×style」によって、和の設え、空間の美しさを伝えられる移動可能な組立式和室として開発されたのがこのミニマム空間の一畳台目茶室「紙竹庵」である。ト



ライウォール製棺メーカーのウィルライフ(株)と建築デザイン事務所(株)アルフデザインの代表で1級建築士、伝統再築士の三原宏樹氏、そして免疫木材(イムウッド)を用いた家具・住宅建材の加工・販売の(株)ウッドサークル、八女簾の(株)鹿田産業のコラボレーションによって開発された。

数人いればわずか10分程度で組立てが可能で、釘や接着剤などは不要。幅2,010×高さ2,160×奥行2,110mmの紙竹庵には簾が掛かり、4枚の畳(幅900×奥行900mm)が敷かれている。今後は掘り炬燵スタイルも開発される予定。

相談コーナーをはじめ、吸煙機を設置して喫煙コーナー、紙竹庵を2つつなげて導師控室になるなど、葬祭会館においても可能性のあるユニット家具である。

TEL●045-532-6875 FAX●045-532-6867